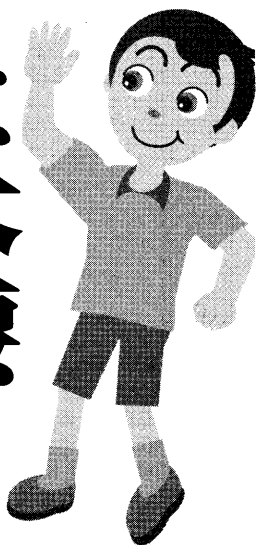


三重県健康づくり推進条例がスタート 企業もヘルスプロモーションに本腰！



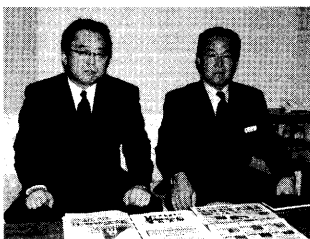
三重県健康づくり推進条例が、全会一致で県議会を通過し、今年四月一日から施行されました。三重県では、健康づくりを単なる生活習慣病の予防と限局せず、県民が生きててよかったと思える社会の構築、すなわちクオリティ・オブ・ソサエティを向上させる活動ととらえています。そのため、条例には行政の責務のほか、企業など事業者の責務まで明記しました。県職員は、条例を普及させるため「営業マン」のごとく企業に足を運び、そのやる気を引き出しています。健康づくり推進条例はどのような条例か、企業の活動とともに紹介します。

条例を通じて 「県がバックアップしてくれた」

「健康づくりに条例という枠組みをつくってくれたのは、うれしいですね」
三重県最大のバス会社、三重交通株式会社竹谷賢一観光営業部長は、健康づくりに関する企業の責務を盛り込んだ同条例の制定が、大きなビジネスチャンスになるといっています。

同社は、三重県健康づくり総合計画「ヘルシーピープルみえ・21」の考え

に賛同し、平成十四年度は、県の数値目標のうち、「公共の場および職場における分煙実施の徹底（目標値…一〇〇％）」「日常生活における歩数の増加（目標値…歩く機会を増やし現状より増加）」の二点に着手しています。分煙については、事業所内



三重交通株式会社の竹谷賢一（写真右から）
光営業部長と後藤人事部長

での社員用喫煙場所の設定などのほか、バス会社らしく、観光バスツアーの車内禁煙を掲げ、一方、歩数増加についても、自社商品の「バスハイク（バスで行くハイキングツアー）」に参加しやすい職場環境をつくって社員の歩く機会を増加させるほか、「バスハイク」で県民に歩く楽しさを広くアピールします。

「世界遺産の熊野古道大遠足という日帰りバスハイクには、四か月間に二万人以上が参加し、その後も参加者同士、独自にウォーキングの会をつくられているようです。企業でも、健康づくりを支援していけるんだと思いますね」と竹谷部長。同社ではすでに、「ヘルシーピープルみえ・21協賛ハイキングツアー」や「三重県民の日特別コース」などの商品を提供。PR用チラシには「ヘルシーピープルみえ・21」のロゴマークを刷り込み、県



ヘルシーピープルみえ・21協賛ハイキングツアーを広報する三重交通のチラシ。ロゴマークの下には、「三重交通は、三重の健康づくり総合計画を応援します」と記されている

計画の普及に貢献しながら、セールの活用しています（写真参照）。「いまのお客さまは、健康や環境に関心があり、高学歴で知識欲も旺盛。健康づくりと自然環境、歴史などを一体とした時間消費型ツアーをどんどん出していきたい」と竹谷部長は意気込みます。

一方、グループ三九社、五、〇〇〇人以上に上る従業員対策でも、「自社